

この記事では、第一寮、第三寮は大正13年に建てられたとある。

"我らの青春"しのぼう

25日に寮生OB会

かつての寮父母も招いて

横浜市金沢区谷津町にある横浜国立大学工学部の第四学生寮が老朽化のため、二、三年以内に取り壊されることになったが、これを前に、かつての寮生らが集まり二十五日、金沢区内の旅館で久しぶりの寮生OB会を開く。今回は特に、昭和二十一年の開校当初から三十二年間にわたって寮父母を務め、学生らの世話を焼いた飯沼政雄さん（べんこ）利子さんも夫婦一同区谷津町在住の金婚式のお祝いを兼ねてのもので、全国各地から約五十人が駆けつけて、おじちゃん、おばちゃん、と青春時代をしのぶ。

第四寮の建物は戦時中の昭和十九年三月、近くの工場で働く人たちの宿舎として設けられた。戦後、三棟のうち二棟は市の職員寮などに使われ、本造二階建て約七百五十平方メートルの一棟が二十一年二月、工学部の前身の横浜工業専門学校（現横浜国立大学）の寮として引き継がれた。定員は四十人前後。

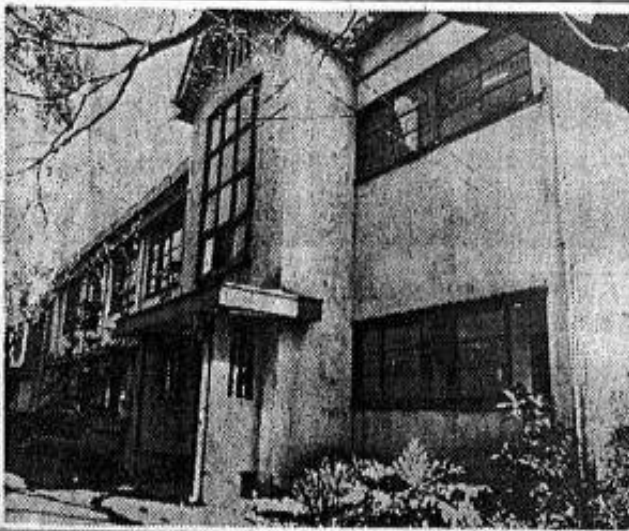
工学部の学生寮は南、金沢区内に四つあったが既にひとつは老朽化のため取り壊され、大正十三年に建てられた第一、第三寮と、第四寮もこの二、三年のうちには撤去され、保土ヶ谷区の大学キャンパス内に新しい施設が建てられる計画。

こうした事情と、世話になった飯沼さん夫婦が今年六月に結婚五十周年を迎えたことから、埼玉県廣市、会社員山本道夫さん（みちのぶ）三十三年三月卒業のOBが、寮ゆかりの地の金沢区で十年ぶりのOB会を開くことになった。

OBらにとって寮は青春時代の思い出多い生活の場。長年、暗い仕事をした飯沼さん夫婦は子供がなく学生らをわが子のように世話した。世話になった人たちは四百人近いが、大手の会社役員など今では社会の第一線で活躍して

いる人も少なくない。

OB会は二十五日午後四時半から金沢区栗町の旅館・金沢園で開かれ、参加者は二十六日には南区弘明寺の元の工学部校舎、保土ヶ谷の大学キャンパスなども訪れることにしている。



横浜国立大学工学部 第四寮解体を前に

OBらの思い出が詰まった横浜国立大学工学部第四寮